



いつも全力！

宗像市議会 建設産業常任委員会 副委員長

あべ よし ひで

安部 芳英

〒811-4175 宗像市田久6丁目1番  
Tel / Fax 0940-32-1386  
メール abeyoshihide@gmail.com  
ホームページ http://abe-yoshihide.jp/



▲公式HP

北海道胆振東部地震により被害に  
遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます

議員活動報告書2018秋号

## 1 ナイトタイムエコノミー 施策について

※ナイトエコノミーってなに？ 日没から日の出までに行われる経済活動の総称

夜間、早朝の観光資源を活用した「ナイトタイムエコノミー」施策の推進

- 観光客や市民が夜にお金を使う場所や機会の創出
- 域内消費額の増加
- 域内経済効果が見込める

### 1 「ナイトタイムエコノミー」の具体的な施策の可能性について

Q1 ① 宿泊施設と市内事業所との連携を市内全域に広げるためにバス、タクシー割引制度の導入について検討していただきたいが。



交通事業者への割引制度については、行政が直接的な支援とか助成ということよりも、宿泊事業者、交通事業者、バス会社、タクシー会社、飲食事業者で連携してできるような方策も考えられるので、積極的な支援や調整は行っていく用意はある。

Q1 ② 文化、スポーツに限らず一定数以上の宿泊客が見込める全国大会等を市内で開催する場合において交通手段の確保や宿泊費の補助などの支援制度を庁内で連携して検討することができないか。

今後は観光コンベンション事業、MICEの誘致支援策として、現在の補助制度の整理や改正を視野に入れて検討を進めていきたい。

Q2 ① 東郷駅、赤間駅、教育大前駅(バスセンターにも近接している)の駅周辺で夜のイベントを行う場合に、来場者の消費行動がイベント域外にまで波及するような経済効果が期待できる場合に限って費用(駐車場代、警備代、照明設備費、公報宣伝費、テント・屋台設備費)の補助を検討することができないか。

中心商業地への誘客効果や消費の促進などが期待できる事業に対しては、市の補助金による支援や国県の補助支援制度の活用などのほか、いろいろな支援を行っていきたい。

Q2 ② 赤間駅北口広場(近隣固定資産値から試算した資産価値6,000万円)の設置目的(賑わいの創出と防災拠点)と利用状況(年間に1度行われる祭りで8,000人が利用)を見る限り、利用者増加のための対策が必要ではないか?利活用策、創意工夫として、ステージやシェルター屋根の設置を検討できないか。

まずは小さなイベントでも構いませんので、そういったイベントを積み重ねていただく、そういった実績をまずは積んでいただくことが重要である。市としても、地元でそういった意向があれば、積極的な支援は行っていく。

Q3 ① 宗像大社神奈備祭、赤間祇園祭、八所宮の御神幸祭・古式大名行列など夜の伝統文化行事を観光資源として活用することはできないか。

宗像大社や赤間、吉武などの伝統文化行事を観光資源として活用し、賑わいづくりにつなげていくことは、大変意義あることと考えている。また、観光客の誘導とあわせて、観光消費にどうつなげていくかも考える必要がある。さらに、市内か、県内か、県外かなど、観光客の誘導の対象エリアやどのような観光客を対象とするのかによっても、活用する観光資源も変わってくるものと考えている。いずれにしても、このような伝統文化行事の情報発信には今後も努めていく。

Q3 ② 関係者との協議を前提としたうえで、海の道むなかた館の広場でナイトバザールを開催、高宮神奈備祭をパブリックビューイングなどすることで地域や保存団体が活動費にお金が落ちる機会を作れないか。



大型スクリーンなどを利用して、多くの人に、幽玄で古代祭祀を思わせるような神事を見ていただくというのは意義あること。実施に当たっては、その費用対効果、あるいは神事であるために、宗像大社との調整、施設の所管である郷土文化課との協議等も含めて検討する。

要望 市の財源に限りがある中で、祭りの後継者不足や維持保存のためには資金が必要で、そのための収益を確保する場が必要なので、お金の回る仕組み、そのための支援をしてほしい。

Q4 ① 市民や市外からの来訪者に本市の夜を満喫していただき消費喚起につなげるためにナイトマップを作成することができないか。

ナイトマップの作成については、市として補助金以外に団体間や事業者間の調整など、いろいろな支援は行っていきたい。

要望 宗像市民の半分はサラリーマン、地元というより、どちらかという外で働かれる方です。つまりその方々が地元の飲食で飲み食いをしてもらおうと、もっと宗像の経済はよくなる。市民に向けてこのナイトマップ、赤間駅周辺、東郷駅周辺、もちろん教育大駅周辺も、夜の消費できる場所があるということを、市として発信、チラシで全戸配布するような取り組みをぜひ検討していただきたい。

Q4 ② 本市で最も観光客が多い時期と言える10月1日～10月3日までを「宗像市世界遺産の日」として条例を制定することで、観光振興及び、歴史文化を大切にする市民意識の醸成及び、市民による域内消費の喚起につなげてはどうか。

各部署等とも検討を行ってまいりたい。

Q5 ① 市民体育館の屋根付き運動場を夜間利用可能にできないか。

中央公園の屋外スポーツ施設が更新時期を迎えてきているので、その計画の中で、ゲートボール場の夜間照明のこともについても検討させていただきたい。



## 2 ふるさと寄附制度が無くなる前に

寄附収入 **15億円超** 域内経済に大きな効果を生んでいる

しかし、総務省がふるさと寄附金の返礼品の返礼率の見直しを全国の自治体に求めたため、今後返礼率の見直しによる寄附額の減少が懸念される。また、ふるさと寄附制度は全国の自治体同士で税収を奪い合うイメージもあり、制度自体の廃止も想定される。

数値で成果を測れるため自治体の意識改革にも良い影響を与えており、自治体間の磨きあいにもつながっている



経済効果 少しでも増やしたい!  
ファン

### 1 特産品等導入の成果と今後の課題



ふるさと寄附の返礼品に特産品等を導入した成果(返礼品スタート以前と比較し、寄附額、寄附件数、参加事業者数、登録特産品数、雇用、経済効果、出店者の声)と今後の課題は。

ふるさと寄附金は大切な制度だが、近年制約が増えている。今まで以上の魅力的な制度にすべき。一方で先を見据えて、ネット通販など、寄附金制度が無くなった場合の施策も検討すべきと考える。

#### 成果

寄附額	3,300万円(H26年度)	15億6,000万円(H29年度)
寄附件数	250件(H26年度)	73,600件(H29年度)
参加事業者数	22事業者(H27年度)	58事業者(H29年度)
登録特産品数	110品目(H27年度)	400品目(H29年度)
市から事業者への返礼品の支払額		6億1,700万円(H29年度)

#### 課題

返礼率の制約がかかる中、どのようにして、これまでのような寄附額を獲得していくのか。

### 2 むなかた応援大使、宗像市観光大使について

費用と具体的成果は?

#### ● むなかた応援大使について



・現在8名 ・名刺代 13万円  
・SNSやインターネットでのPRなど

各界で活躍しており、宗像にゆかりのある方、応援して下さる方に、その知名度や経験をいかして、応援してもらう

#### ● 宗像市観光大使について



・ポスター撮影、PRの販促グッズ代 約300万円(平成28,29年度)  
・宗像での各種イベント参加 ・ラジオなどでの宗像のPR

#### 成果

ラジオ、テレビでの宗像のPR → 全国のファンへ宗像の認知度を向上  
イベント参加者などの来訪

#### 企画実績

寄附申し込みの備考欄に特定の言葉を入れるとサイン入りの名刺がもらえる

平成28,29年度 計2回

139件 158万円

経済効果 1,000万円以上!



応援大使については8人それぞれに活動していただいている。今後も後押ししてほしい。  
宗像市に返礼された方は30,40代が主で関東圏=ぼってん少女隊さんのファン層

SNS等での発信能力がすごく長けている

是非宗像の特産品とぼってん少女隊さんと連携を進めていただきたいが。

ぼってん少女隊は宗像の知名度、あるいはふるさと寄附の増額に多大な貢献をしていただいている。もし宗像でライブも開催ということになりましたら、その活用を、事務所の方と相談いたしながら、検討していきたい。

### 3 寄附の返礼品について

更に継続購買につながるような、つくり手の見える返礼品の開発の検討



例えば、漁師、海女ちゃん、農家など生産者の定期便をつくり、安定収入と本市のファン化、困り込みにつなげることができないか。

ふるさと寄附金は大切な制度だが、近年制約が増えている。今まで以上の魅力的な制度にすべき。一方で先を見据えて、ネット通販など、寄附金制度が無くなった場合の施策も検討すべきと考える。



ファンの方の力を借りながら、そしてまた、宗像のふるさと寄附に関わった方々がもう7万人を超えています。この方々へのさらなる魅力の発信、それからお礼についても、是非検討していただきたい。

### 4 次の収入増加のために

早い段階で販路拡大、ネット通販、特産品開発、商品宣伝費、研究費など次の収入増加のための仕掛けづくりをすべき



そのための投資に寄附金を優先して充てるべきではないかと思うが、市の考えは。

宗像ファンを逃さないよう、あらゆる販売チャンネルにつなげることが大事。寄附金の充当は別にして、すでに活魚センターではネット販売に昨年からは着手している。「道の駅むなかた」でも来年度開設に向けてネット販売の検討に入っている。市も販路拡大支援を行う。返礼品送付時に商品PRを同封し拡大に繋げている事業者もいる。ふるさと寄附金をきっかけにして、売り上げを伸ばす事業者さんの働きかけも行いたい。

### 3 インフラの有効活用策

将来人口が減少していくことによって、宗像市の下水処理量にも余力が生まれることが予測できる



そこで、インフラ(下水管)の有効活用を行い、かつ市民(特に高齢者)の利便性の向上につながるように、団地の一部において、流し台にディスポーザーを設置することができないか。

宗像市下水道条例に規定する水質基準が満たされるディスポーザー排水処理システムのみ設置を認めております。よって、団地内の集合住宅においては、各戸でディスポーザーを設置し、敷地内に共同使用の排水処理施設を一つ設置する方法がございます。戸建ての住宅については、ディスポーザーと排水処理部がセットになったディスポーザー排水処理システムを設置する方法で、下水道管を有効に活用していただき、市民の利便性が向上すれば、団地再生の一環になるものと考えます。